

PIONEERS
IN THE FUTURE OF FOOD AND LIFE

TOP MESSAGE

持続可能な社会の実現に向けて
食といのちの未来を拓く
挑戦は続く

代表取締役 社長執行役員
福島 豪

社員を信じ、社長の役割を全うする

先日の株主総会をもって、社長就任から丸2年が経ちました。スリリングかつエキサイティングな毎日を過ごし、楽しく社長を務められていることに感謝しています。

社長に就任して感じたのは自分ではできないことは限られており、社員の力を信じて“道を示す”ことこそが私の仕事であると明確に意識できたことです。就任直後、製品配送システムのトラブルでお客様に冷蔵庫をお届けできないという事態が起きました。自分の無力さを感じる出来事でしたが、社員たちが一生懸命頑張ってくれたお陰で、お客様からお叱りをいただいたものの、無事に問題解決に至りました。その事が契機で新しい情報システムの仕組みを構築し、配送センターへの大きな投資も決定して、現在建設中です。当社には役割を理解し、協働できる人材が社内に揃っており、役員と社員が自身の仕事を着実に全うしてくれています。だからこそ、社員の力を信じて“道を示す”役割を、社長としてしっかり果たしていきたいと考えています。

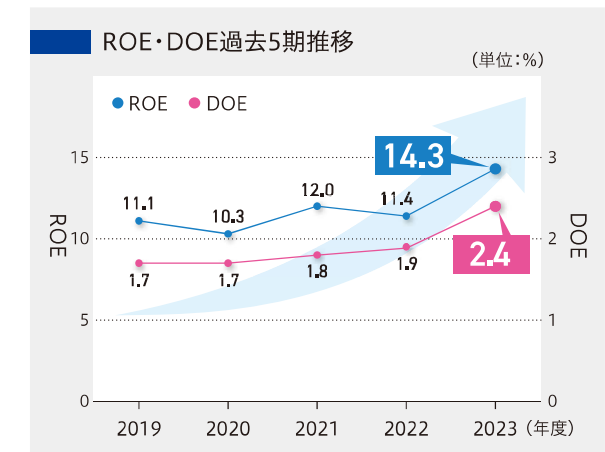
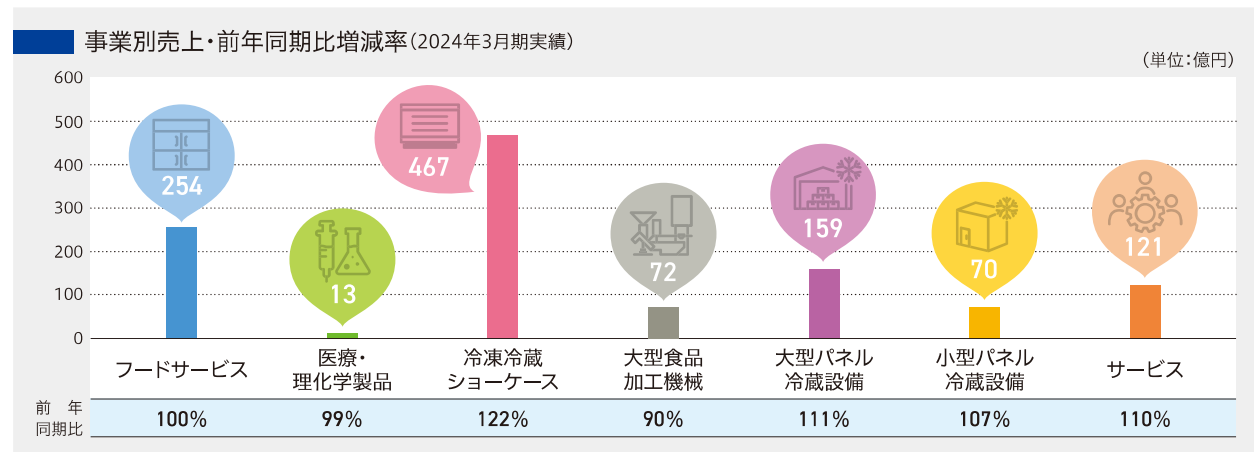
食といのちの未来を拓く

当社グループは7つに事業を分けて展開しておりますが、どの事業にも課題があり、ビジネスチャンスがあります。外食産業やスーパー、食品工場は生活産業ですから、人が生きるために必要な「食」のインフラを整えるという使命感をもって仕事に臨んでいます。

また、これまではほぼ「食」の領域で事業を行ってきましたが、私が社長就任後に加えた「いのち」の事業領域で、仕事が増加してきています。例えば、医薬品や半導体、EV電池などの製造や保管の空間づくりをガリレイグループで担えるようになってきました。これらの非食品分野は成長が著しく、市場規模の拡大に伴って、さらにガリレイグループのビジネスチャンスが増していくでしょう。

2024年3月期は過去最高の業績を達成

昨期は想像以上の好業績を残せました※。それは、社員が「圧倒的価値創造」というテーマに共感してくれたからです。先期はじめに、価値の増加に先んじてベースアップを実行しました。「圧倒的価値創造」というテーマが社員に伝わり、タイプを上げて頑張ってくれたことが価値創造につながって、業績向上を牽引してくれました。今期も期待を込めてベースアップを実施しました。今後もこうした価値創造の好循環を生み出していきます。現在はさらなる企業成長を図るための投資フェーズです。新工場建設や新配送センター建設に加え、「GALILEI Global Vision 2030(GGV2030)」(P11参照)でも大きな投資を見込んでいます。持続的な成長のための投資を今後も積極的に行ってまいります。そして配当方針でも示した通り、DOEを毎年少しでも確実に上げられるよう経営の舵を取り、株主の皆様へ還元していきます。



※好業績に伴いROEは10%以上を維持、DOEも年々向上

社会課題を解決するパーパスの実現へ

社長就任後にまず取り組んだのは、パーパス「食といのちの未来を拓く」と、重点戦略「SDG人」（P9参照）の策定でした。当社の強みは人ですので、SDGsの「s」を「人」に置き換えました。

“S”サステナビリティに関しては社外取締役の指導でマテリアリティを特定し、これを中心にサステナビリティ経営に取り組むよう、今期の経営方針を発表しました。また、サステナブルビジョン「Dramatic Future 2050」の取り組みでは、業界初のノンフロン冷媒を採用した業務用冷蔵庫、製氷機の量産を開始しました。同じく業界初のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）のスーパーマーケットをお客様と協働して施工するなど、新しい社会価値が生まれています。



“D”デジタルでは、AIを活用したスマート診断により、高いレベルで故障予知が可能になりました。この技術を用いて業界初の「冷媒ガス漏れ10年保証」を本格スタートさせます。

“G”グローバルにおいては、GGV2030で“道を示す”ことができたと感じています。また、“人”については前述のペースアップを確実に実施しています。企業理念である“社員の幸せ”の中に「物心両面の幸せ」とありますが、物と心の両方が幸せでなくてはならないと考えています。

今期のテーマは“レベチ チャレンジ”、略して“レベチャレ”です。私自身は「働きがい溢れる会社」にすると宣言しました。働き方改革はもちろん、やりがいを持ってチャレンジする社風や文化を育てます。そのため、今期から「働きがい向上センター」を立ち上げ、全社を挙げて社員のモチベーション向上に努めています。社会課題を解決し、新たな社会価値を創造する取り組みとして象徴的なものは、CO₂冷凍システム「NOBRAC」です。これは地球温暖化防止という社会的要請を受け、当社で熱源の開発にゼロから取り組んだ、レベチャレの好事例です。2022年6月に発表してから、堅調に導入件数を伸ばしています。冷凍サイクルを自社で作り込むことが可能になったことにより品質が向上し、導入後の後掛り費用が殆ど無くなりました。またさらなる省エネなどの付加価値を生み出しています。この商材は、エンジニアリング事業やタカハシガリレイのトンネルフリーザーにとって大きな武器になっています。今後は海外展開などさらなる投資を行うことで、事業化も視野に成長させていきたいと考えています。当社の目指す未来は、フロン冷凍機を全てNOBRACに置き換えることで地球温暖化を「逆転」させたい。まさに「CARBON（炭素）」を逆転する「NOBRAC」です。これがパーパス実現の一つの姿だと思っています。

ホールディングス化でガバナンス強化を図る

課題としては、コンプライアンスの徹底だと感じています。来年4月より持株会社制へ移行しますが、事業会社全てにコンプライアンスの徹底が求められます。グループ会社の中には管理部門が数人しかいない小規模な会社もありますので、横並びでコンプライアンスを整えていくことが課題だと感じています。ガリレイグループとして急激に成長中のため、ホールディングス化を機にガバナンス強化を行うのは非常に良いタイミングだと考えています。持株会社が、事業会社をしっかりと監督する体制にすることが重要です。

未来を見据えたチャレンジを継続

今期は5年後、10年後に向けたさまざまな準備を行います。チャレンジなくして会社は成長しません。そのチャレンジを数多く作る1年です。例えば滋賀県での新工場の建設は、国内では2006年の岡山第二工場以来18年ぶりです。工場建設に携わる社員は骨が折れると思いますが、この経験を通じて大きく成長するでしょう。新工場ができれば新しい仲間が増え、新製品も生まれます。そうやって会社が飛躍的に活性化するので。ホールディングス化やGGV2030の策定など、今年はさまざまなことにチャレンジし、そこに社員全員が参画する1年にしたい。そうすることで社員も会社も、一段高いレベルに到達できるはずです。パーパス実現を目指し、社会価値・企業価値を最大化するための布石の年にしていきます。